

指導者と若者結び 共に未来へ

国谷さんが

持続可能な開発目標（SDGs）を実現していくのか。キャスター裕子さんが国連の責任者トーマス氏に聞いた。SDGsは、世界がさまざまな課題を2030年までに決めることをめざす。その実現にすべての国々、企業、人々が取り組むを求められている。

国谷 SDGsが定められて1年あまり。なぜこの目標が重要なのか、まだ市民に十分に伝わっていないのではないだろうか。

ガス おっしゃる通りです。今、世界中で「自国第一」「壁を造ろう」などと掲げる孤立主



トーマス・ガス（Thomas Gass）スイス出身。国連職員としての経歴が長い。駐ネパール大使を務め、13年から国連経済社会局事務次長補。

たものが欲しいのです。自分たちの将来を破壊することに加担したくないからです。指導者とこうした若い市民の間に新しい社会契約が結ばれて初めて、SDGsは実現できるのです。

国谷 世界中で内向きの政権が権力を握りつつある傾向は、SDGsに不利なのは。

ガス 灯台は、晴れた日のために建てるものではありません。夜のため、嵐の日のためにあるのです。確かにこうした枠組みは今、試される時期を迎えようとしているのかもしれない。ですが、いずれ試されるものだと分かっています。今こそ、決意を試す時です。

国谷 トランプ大統領は以前、米国の環境保護規制を緩和させ、パリ協定から離脱すると

ガスさん 今 試される時期迎え

発言しました。

ガス トランプ氏は企業家です。実業界では、地球が繰り返し送っている警告をもう無視できないという認識が広がっています。今のやり方を続ければ子どもたちの未来はない。多くの企業はこうした状況を理解するようになりました。ですから米国の逆行は想定されるほど激しくはならないと思います。

国谷 しかし米国は力のある大国です。トランプ氏が掲げる「米国第一主義は、企業や各国政府に対して間違ったメッセージを送りたくないでしょうか。

ガス もちろん米国の大統領が、もっと強い形でSDGsやパリ協定を受け入れるのなら、その方がよかったです。でも米国だけが国ではありません。中国はとても熱心で、SDGsや持続可能な開発を前面に打ち出しています。ほかの国にとっても主導権を握り、米国に追随するよう促す機会なのです。米国は力のある国ですが、日本も同じ。大変に重要な国なのです。

（構成・仲村和代、写真）
（写真・金川雄策）